

火山と生きる 観光地霧島



まちを飲み込むような噴煙 [2011.1.26 (17:05) / 牧園町の北消防署付近]

新燃岳の噴火は霧島市の観光に大きな打撃を与えました。前年の2010年4月、宮崎県で発生した口蹄疫では、イベント中止が相次ぎ観光客が減少しました。観光関係者は一丸となり、「いざ霧島100万人キャンペーン」を実施。2012年3月の九州新幹線全線開業に期待していた矢先のことでした。

観光への被害19億5000万円 空振被害で相次いだキャンセル

1月26日の噴火から6日間で約2,900人が宿泊をキャンセル。それでも当初は、高千穂河原以外は降灰もなかったため「観光客に来てほしい」との思いがありました。2月1日、空振を伴う爆発的噴火。一部の宿泊施設では窓ガラスが割れ、玄関サッシが曲がるなどの被害を受けました。

2月1日、入山禁止区域が4kmに拡大され、霧島の魅力である韓国岳、大浪池、中岳、高千穂峰などへの入山は禁止されました。2013年1月現在でも新燃岳、中岳などへの登山は禁止、高千穂河原キャンプ場も夜間の避難誘導が困難との理由から閉鎖されたままになっています。

市では2011年1月から3月までの観光に関する経済損失を約19億5000万円と試算しています。



高千穂河原には一晩で約6cmの噴出物が積もった [2011.1.27]



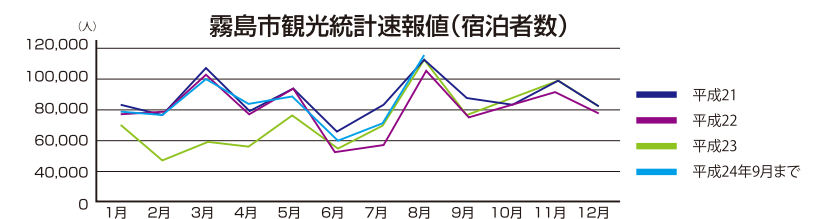
足首が埋まるほどの軽石が堆積 [2012.7.22 / 高千穂峰]



高千穂から中岳へ向かう登山道は入山禁止 [2011.1.27 / 高千穂河原] 軽石に埋もれた休憩用のイス [2012.8.10 / 高千穂～中岳手前]



客室の窓ガラスを取り替えるホテル [2011.2.3 / 牧園町丸尾]



平成22年4月には宮崎県で発生した口蹄疫の影響で日帰りや宿泊の観光客が減少、その後持ち直しましたが、平成23年1月の噴火で再び観光客は激減。その後、ホテルや旅館などでは安全対策を施したり、おもてなしの研修をしたりした結果、8月以降は前年を上回りました。



牧園町高千穂霧島新燃荘社長 岩元宗孝さん(64)

INTERVIEW お客さまの声を励みに

私の旅館は新燃岳のすぐそばにあります。噴火した朝、鹿児島市内に行く用事があり、溝辺の空港付近を走っていました。そこから山を見ると、新燃岳が黒く膨らんでいるように見えたのです。すぐに旅館に「気を付けるように」と電話をしました。するとその日の夕方に噴火。私のところは規制区域内でしたので営業が1年半できず、本当に大変

でしたが、お客さまから心配の声をかけていただき励みになりました。通行規制が解除になると聞き、大急ぎで準備し、再開。再開してから驚くことに1週間で1000人のお客さまが来てくださいました。自然が相手なので、人間が思うようにはいきませんが、これからも火山の恵みで生活している私たちは山と仲良く付き合っていきます。